



# 第1会場●2F 第4研修室

■司 会/杉内 直也 島根県吉賀町教育委員会 派遣社会教育主事  
角 亮子 佐賀県立生涯学習センター 企画員

分科会の進め方

10:45~10:50

## 1 「通学合宿」が目指す自主・自律の生活習慣と地域の教育力ネットワーク 10:50~11:20

熊谷 直久(山口県宇部市) 宇部市鶴ノ島校区子ども委員会 会長

通学合宿は5泊6日で、子どもの生活の自律を目指す基本プログラムを継続し、過去10回、10年を重ねて来た。目的は、子どもの自律体験を通して、生活習慣を確立し、子ども同士、子どもと地域住民の相互交流を作り出すことである。また、通学合宿を地域で支えることで、地域の協力者を掘り起こし、住民の交流と地域の教育力を高めようとしている。そのため、子ども委員会、子ども会育成連絡協議会、地域活動連絡協議会の3者が連携して実行委員会を組織し、できるだけ多くの人々の協力が得られるよう工夫している。合宿を通して、子どもは変容し、自主・自律の態度が養成されている。

## 2 地域の教育力を補完し、自身の生涯学習力を維持する土曜講座 ～退職校長会の地域貢献～ 11:25~11:55

鶴木 孝夫(鹿児島県始良市) 始良市教育委員会 社会教育指導員

学校週5日制に伴う「土曜日の空白」を憂う地域は多い。旧始良町の退職校長会は、平成14年から「地域教育力」の補完に取り組んで来たが、合併後も同じ発想が新市の退職校長会に引き継がれ、教育行政との協働が実現している。開催は5月~12月の土曜日に全16回。会場は、各種社会教育施設はもとより、歴史民俗資料館から国立公園の海岸に至るまで、市内全域に広がる。指導の中心は子どもの体験活動を支援し、郷土意識の醸成に置く。校長職経験者の広い視野と学識を生かし、活動は、歴史、山学校、絵画、俳句、採集、工作など多岐に渡る。元校長の肝いりで、「土曜講座」の学社連携はたくましくして実現し、退職校長会が率先する地域貢献は、教育行政・社会教育施設の活性化は元より、会員自身の生涯学習と活力維持に貢献している。

## 3 社会教育は「民草」を育て、「民草」が地域を拓く ～社会教育が生んだ自主組織「草社の会」の志と実践～ 12:00~12:30

松本 英俊(長崎県) 長崎県社会教育支援「草社の会」 会長

「草」とは、「民草」を意味する。県の社会教育関係者及びOBの中から、社会教育の現状に危惧の念を抱くものが県内各地から集まり、会費制の自主組織として結成した。雑草のように地域教育力を再生・拡大することが趣旨である。活動は、県内各地を巡回する「移動フォーラム」(年1回)と会員研修会(年2回)を基本とし、情報収集と会員交流を図りながら各種の講座・講習会を企画・実施・支援している。また、公民館大会を初め、県内の各種社会教育関係事業に会員が積極的に参画し、指導・助言・実践発表・コーディネーター機能などを務めながら、会員の資質と活動の目的意識の向上を求めて1年日に入った。現在、NPO化に向けて準備中である。